

宝塚ファミリーランド「水草園」の追憶

岡 島 一 允

宝塚ファミリーランドは、歌劇と温泉の町として知られている兵庫県宝塚市にある。ここには、「花と水のリラクゼーション」と言うコンセプトに基づき、動物園、植物園、遊戯機が揃った総合遊園地で非日常的な世界を作り出している。

宝塚ファミリーランドは、1911年に産声を上げ今年で90周年を迎える。この遊園地の一画に1927年に宝塚植物園が設立され、1928年温室が完成し1937年には、非常に貴重な植物であった、世界一の浮葉を持つオオオニハス（Victoria 属）の栽培が開始された。当時は温室内で栽培され、これまで未知であった栽培、採種方法の研究がされた。不幸な大戦中は栽培を中断されていたが、1952年より再開され、温室内だけでなく野外の池でも栽培展示され、大きな浮葉の上に人を乗せる催しを行い、たいへんな人気を博したようだ。この栽培技術やイベントは今に伝えられている。ところで、園内のロケーションの一部である池の一画を利用して水草園が設置されたのは、いつの頃か定かな記録は残されていないが、たぶん植物園設立直後ではと思っている。直径63cm高さ45cmの陶製碗型鉢で植えられ、その鉢を地面に埋め込みコンクリート製の水路を作り、上部から水を流すとすべての鉢に水が満たされるように設計されていた。もちろん鉢は高低が作られていた。

水草園で栽培されていたリスト。

ミズニラ科、ミズニラ。

ミズワラビ科、ミズワラビ。

デンジソウ科、デンジソウ。

サンショウモ科、サンショウモ、オオサンショウモ。

オモダカ科、ヘラオモダカ、サジオモダカ、ハククワイ、クワイ、吹田クワイ、ヤエオモダ

カ。

サトイモ科、ショウブ、ミズバショウ、ボタンウキクサ、ザゼンソウ、オランダカイウ。

ハナイ科、ハナイ、ミズヒナゲシ、キバナオモダカ。

カヤツリグサ科、クログワイ、アンペライ、コウキヤガラ、フトイ、タテジマフトイ、ヨコシマフトイ、カンガレイ。

イネ科、斑入クサヨシ、マコモ。

アヤメ科、ハナショウブ、ノハナショウブ、チャショウブ、カキツバタ、四季咲性カキツバタ、キショウブ、八重咲性キショウブ。

イグサ科、ラセンイ、コヒゲ、イ。

ウキクサ科、ウキクサ。

クズウコン科、ミズカンナ。

ラン科、サギソウ。

ミズアオイ科、ホテイソウ。

ヒルムシロ科、ヒルムシロ。

ミクリ科、ミクリ。

ガマ科、ガマ、ヒメガマ。

ムラサキ科、ワスレナグサ。

キキョウ科、サワキキョウ。

キク科、ハンカイソウ、サワオグルマ、サワアザミ。

アブラナ科、ワサビ。

マメ科、ミズオジギソウ（ウキオジギソウ）。

ミソハギ科、ミソハギ、エゾミソハギ。

ミツガシワ科、ミツガシワ、ガガブタ、アサザ。

スイレン科、ジュンサイ、オニハス、ハス、コウホネ、ヒメコウホネ、ヒツジクサ、温帯性スイレン、熱帯性スイレン、ヒメスイレン、大賀ハス。

サクラソウ科、クリンソウ。

キンポウゲ科、エンコソウ。

ヤナギ科, オノエヤナギ.
ドクダミ科, ハンゲショウ.
ヒシ科, ヒシ.
セリ科, ドクゼリ, セリ.

三木茂博士より寄贈を受けあ「ハナイ」や、県内で採集したデンジソウ、ミズニラ、ガガブタ、ガマ、大阪吹田市の伝統野菜「吹田クワイ」等、遊園地という範囲のなか、身近な種類が中心で、なかには湿地性の植物も栽培していた。それから、夏休みを利用して、宝塚市内の小学生を対象にした「宝塚自然教室」を、1955年より開催し、動物や植物の話を担当する係員を講師に楽しい数日間を過ごした。植物の話としては、食虫植物と水草園を活用した水草の話であった。水草園の前で、ハスを掘って地下の茎「蓮根」や穴を見たり、ホテイソウが水に浮く様子、ショウブの香り等、実物を手に生徒達と勉強した思い出があるが、この

教室も阪神淡路大震災が起こった1995年に中止されてしまった。また、1980年代より始まった園内リニューアル工事により、この歴史のある水草園も1992年に池と共に埋め立てられ、これら水草の栽培管理にたずさわってきたが、今振り返ってみると、かえすがえすも残念である。



図2. ミズバショウ



図1. 水草園



図3. 熱帯性スイレン